

発行日 平成21年 3 月 6 日
 発行者 〒036-8561 弘前市文京町 3
 理工学部同樹会(理工学部内)
 題 字 同樹会長 千葉 信行
 印刷所 (株) 笹 軽 印 刷



畑
山
一
郎

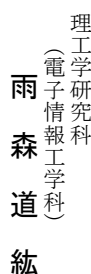
(昭和四十六年
理学部生物学科卒業)

潤先生に師事）の三名。卒論は「ソラマメ根端分裂組織の細胞分裂周期」でした。その後、新潟大学大学院理学研究科（故吉田吉男先生）で修士課程、弘前大学大学院医学研究科（故佐藤清美先生）で博士課程を修了し、同大第二生化学講座の教官として「肝発癌過程における解毒酵素の発現機構」について研究してきました。また、弘前に戻ってから、近辺にいる遺伝学教室OB（千葉君、祐川幸一君・現弘前大学、鈴木孝夫君・現青森県立保健大学、高館正男君・現青森県つがる農産物加工センター、小亀圭司さん・当時弘前大学講師、菅原敬君・現信州大学）と、佐藤先生、中沢先生を囲んで、月一回のペースでセミナーを開く事になりました。セミナーは、佐藤先生の定年まで続きました。このように、学部学生時代は、不真面目な生活、その後は研究に真摯に取り組んできました。その不真面目の中には、実は大きな意味があったのです。が、それは最後に。

平成四年に佐藤清美教授が逝去されると、富士主計医学部長から、青森県の衛生環境行政の科学的な核である環境保健センターで遺伝子を扱える人材を求めたいがどうか、というお話しがあり、その職場に勤めていた後輩の大友良光君（現弘前大学・当時は富士先生の講座の研究

究生でもあった）から職場の状況を聞いたところ、かなり設備は整っていることがわかり、平成五年に転職することにしました。当時、センターには、微生物部、理学部、公害部、放射部の四研究部がありました。どの部にも属さない総括研究管理員という職名でした。フリーな立場なので、大学時代の研究テーマに加えて研究指導に力を注ぎ、一方、他県に先駆けてDNAシークエンサーを設置して研究環境の整備を進めました。最近では、当該機器は、変異の激しいノロウイルス遺伝子の塩基配列決定に活躍しています。現在、三研究部からなり、新聞等で目に触れる仕事としては、微生物部のノロウイルス・インフルエンザウイルス（新型を含む）、理化学部の中国製ギョウザのメタミドホス、公害部のダイオキシンやアスベスト等の試験研究が挙げられます。平成十九年に同センターの所長職を拝命しました。現在、四十一名の職員が勤務していますが、この数になるまで職員間の人間関係に問題が生ずるようになり、学生時代は真面目一本でなく、多様な人間社会と接してきた事が、職員の苦情処理に大きな力となっています。そして、「仕事上は上下関係が重要だが、研究には上下関係はない」をモットーに各職員に接してきたつもりです。

青森市にある環境保健センターに勤務以来、十六年が過ぎようとしていますが、当センターには現在、同樹会会員として私（他姓・横山）、化学科出身の村上淳子（旧姓・横山）、秋田谷志保、対馬典子（旧姓・岡）、工藤志保（旧姓・藤田）、工藤香織（旧姓・山本）、玉熊義久の六名が在籍している。近々においでの際は是非お立ち寄りください。



遠くて近い思い

平成二十年度末をもって、物理科学道上宗已准教授、物質創成化学科中東克美准教授、電子情報工学科雨森道紘教授の三名の先生方が退職されました。ご退職の先生方におかれましては、永年にわたる教育研究活動、及び同樹会に対するご尽力に対し厚く御礼を申し上げるとともに、今後益々のご活躍と同樹会への変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。なお、次の先生から本学部における様々な思い出や出来事に纏わるお言葉を頂戴しました。在学時代にお世話になった先生のお顔、お言葉に、当時を懐かしみながら読み頂ければ幸いです。

定年退職教員

大学を去ることになって、原稿依頼が『学園便り』『同樹会』『後援会』からきた。それぞれに異なる内容を書いたが、『学園だより』の終わりには、余人は知らず、自分では母校に幾ばくかの貢献が出来たと思うと書いていた。もしも皆さんにも機会があれば読んで戴きたいと思う。これまでを振り返ると、心に残る様々な悔恨があり、それらは

と屈みながら自分の両手で若①の左手をつかみ、あたかも繊細な壊れ物でも扱うように自分の頬に当てたのである。彼の酔いは極度にまわっており、先ほどの先鋭的な表情は完全に消え、まるで菩薩のような柔和な表情でそうしたのである。そのとき若②は中①がすでに外の向こうを歩いているのを発見して「ああ何だ、こういう時は黙って帰らないで……」と思わず言ったのである。若①は、通常ならば、すぐに中①の後を追う筈であつた。しかし、それができなかつたのである。片手はしきりかつつかまれてその手を自分の両頬にあててゐる中③がいた。このころのようなときに何ができるか。なにもできない。ただその行為が、終わるのを待つしかなかつた。仕方がないな。中①さんも、完全に問題がないという訳でもないからなあ」と、邪陰に中③の手を振り払つても飛び出す程には勇氣のない自分にしきりに弁解してゐたのである。そのとき中①は自分を追つてこない若①を見て、これまでの信頼感に疑問を持ち、その時から心にふたをしたのである。翌日、若①は中①に会つたが、一手をつかまれて頬にあてられて……など話せるわけがなかつた。思へば、あの数十秒が、その後の二人の人間関係を決定づける瞬間であつたのである。あの時、中③にどのような思いが生じてあゝの行為になつたのか今も判らない。それ以前にもそれ以後にも無い。それは私にとつて、まさに人生に1回こっきりの体験であつた。

人生には予想も出来ない落とし穴が待っているのである。

就職状況

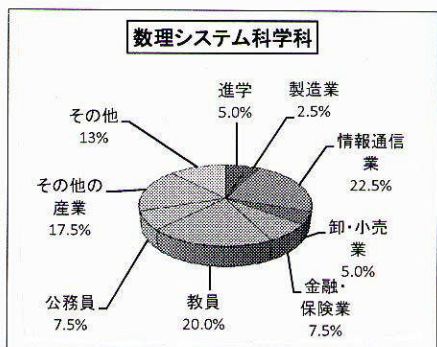
澤田英夫

本年度一月末現在の理工学部および理工学研究科の就職内定状況は、八八・八％および八八・二％と前年度同期に比べ学部生ではプラス六・九％、理工学研究科生ではマイナス六・一％と大学院生の内定率が低下してはいますが、本年度も昨年同様ほぼ順調に就職率が推移している状況と言えます。特に、学部生の就職率はここ五年間、右肩上がりに高まり、平成十五年度の就職率が九三・六％であったのに対して、平成十九年度においては九七・四％までに高まり、過去最高の就職率を達成できました。この傾向は全学的にも同様であります。しかしながら昨年の秋以降、世界的な金融恐慌の影響を強く受け来年度の求人企業数は大きく減少することとが危惧されます。企業からは求人数は減らざるを得ないが、優秀な人材は確保したい等の意見を多く頂いております。このような状況下では学生諸君は在学中に大いに実力を蓄え、自分の専門性により磨きをかけていたいただきたいのです。

一方、就職率とは反対に、この三年間の大学院博士前期課程への進学率は右肩下りの傾向にあり、平成十七年度の進学率が四〇・五％であったのに対し

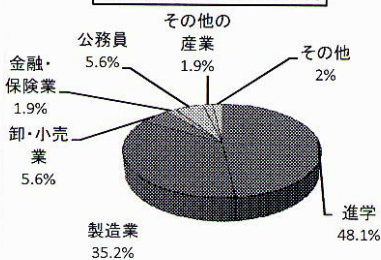
て、平成十九年度には三〇・三%にまで低下している状況です。学部卒業生と理工学研究科修士生の就職先の業種を比較してみますと、学部生の場合は、建設業、製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、卸・小売業、金融・保険業、不動産業、飲食店・宿泊業、農業、教員、公務員、その他の産業等、多岐に渡っているのに対して、理工学研究科修士生においては製造業、電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、卸・小売業、教員、公務員等に分かれるものの、これらの中でも、製造業が五八%と圧倒的に多いのが特徴であります。すなわち、大学院修士生においては大手の製造業に就職する学生が多く、各自が大学院在籍時に身に付けた専門性を充分に發揮できるポジションについております。

朝日新聞社「大学ランキング」二〇〇八年度版によりますと、国内の大学の工学部、理学部における大学院への進学率は全国一位が八九%であり、十位・七位・八位・二十位・六二%、三十位・五八%と高い数値を維持している状況です。すなわち、全国の理工系の学生のほとんどが大学院へ進学する状況になっているのが現実です。このような状況下では、学部生の皆さんも、十分の将来のビジョンを考えたり、今自分は何をなすべきかを十分考へ悔いが残らないよう勉学に努めて頂きたいものです。また卒業生、修了生の方は就職先で多くの専門知識さらには開発能力を身に付けた優秀な同僚・先輩の方々との競争に忘れると思われませんが、自己啓発を揮できるような日々努力をしていただき充実した仕事を行っていただきたいと思います。

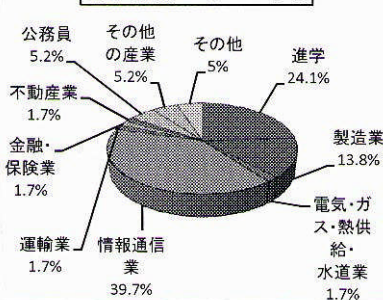


平成十九年度
理工学部
就職状況
分野別グラフ

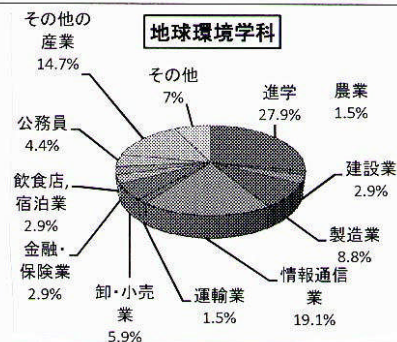
知能機械システム工学科



電子情報システム工学科



地球環境学科



進学先一覧

(理工学部卒業生)

数理システム科学科

弘前大学大学院 二名

物質理工学科

弘前大学大学院 二七名

その他、北海道大学大学院、
長岡技術科学大学大学院、
イーストアングリア大学大
学院

地球環境学科

弘前大学大学院 十名

その他、北海道大学大学院、
東北大学大学院、名古屋大
学大学院

電子情報システム工学科

弘前大学大学院 十三名

その他、千葉大学大学院

知能機械システム工学科

弘前大学大学院 二五名

その他、東北大学大学院



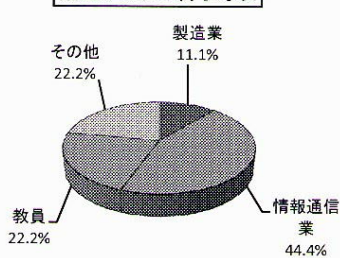
平成十九年度

理工学研究科

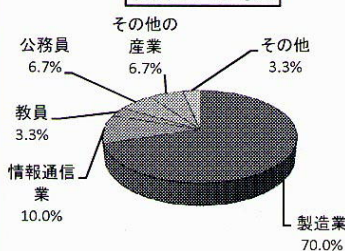
就職状況

分野別グラフ

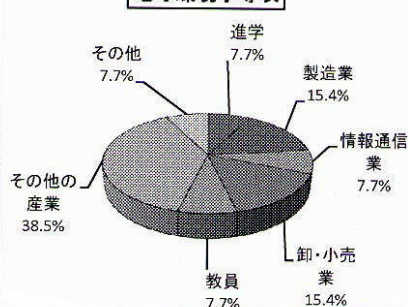
数理システム科学専攻



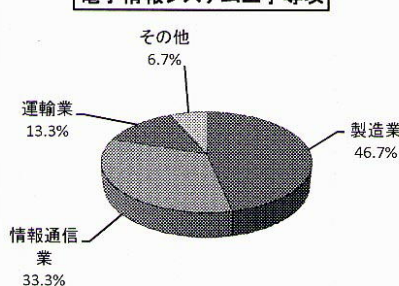
物質理工学専攻



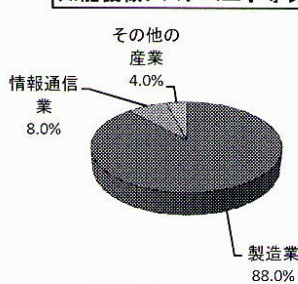
地球環境学専攻



電子情報システム工学専攻



知能機械システム工学専攻



紙上企業訪問(1)

半導体製造

技術に携わって

上田 勝博

(昭和六十一年
理工学部化学科卒業)

この度は同樹会会報第九号の発行に際し、お慶びを申し上げます。

私は理学部化学科を昭和六十一年に卒業しました。所属は無機化学研究室で、内田健吾先生や喜多昭二先生のご指導を受け、現(株)ルネサス北日本セミコンダクタに就職しました。

現在は五所川原市の漆川工業団地にある津軽工場に勤務しております。当社は半導体機器の製造を行っており、自動車や携帯電話に搭載されているIC(インテグレートッドサーキット)チップとなるシリコンウェット(インテグレートッドサーキット)の加工を行っています。製造現場は前工程と呼ばれる塵埃が殆ど無いクリーンルームで作業員は頭から白衣をまといシリコンウェットにトランジスタを形成しています。完成したウェットは当社函館工場や米沢工場へ運ばれ、後工程と呼ばれるシリコンウェットからICチップを切り出し最終製品となります。一つの製品チップには百万個以上のトランジスタと十ミクロンよりも細かい配線で形成されています。

半導体部品とは一言で表現するとコンピュータ部品で、ムカデのような外観をしている、今や

私たちの生活にはこの半導体は欠かせないものとなっています。皆さんも身の周りには必ずといって良いほど半導体部品があることにお気づきでしょうか。家電製品はもちろんですが、時計、電子辞書にも、さらにはクレジットカードにも薄いICチップが埋め込まれています。私の業務は、製品の生産に直接携わっており、新製品の開発や量産のコスト低減のための評価や不具合を生じた製品の解析と対策といった技術担当を行っています。シリコンウェーハの加工には多数の化学薬品を使用するので化学科教室で学んだ知識を活かし業務に反映させています。

技術員としての成果とは、その評価が難しいのですが、新製品の開発に関しては言えば、目標とする性能と開発日程を企画し遂行すること、また、試作を行う前にデザインレビューと称してミーティングを繰り返し実施して、想定される不具合の抽出とそれに対する検証方法を決め実行すること、さらには失敗も成功事例も財産として、技術レポートにして今後に活かすことで、次世代を担うエンジニアに伝えることであると考えています。そこには常に斬新な技術的アイデアが求められ、学生時代での基礎知識と社会人になってからの経験とさらには隘路事項が生じて諦めない気力と体力が融合して生まれるものです。従って技術者はアイデアを考案し、成し遂げることでサラリーを得ていると言っても過言ではありません。

近年の日本の半導体業界はかつてのトップの地位から転げ落ち、トップを取り戻すべく若い技術者の採用と育成が急務となっています。



つています。是非ともこれから就職される皆さんは技術系の業務に携わり、日本や世界の技術を受け継ぎ、そして新たに築いていただきたいと願っております。

また、毎年理工学部の学生が当社へ工場見学に来ていただいています。私がOBという点もあり、応対と半導体製造技術のプレゼンを担当しています。今後もお気軽にお越し下さい。

私事、五所川原に移り住んでも毎週弘前市内のボウリング場へ通い、毎年弘前公園へ行つては見事な桜に陶醉しています。昨年は久しぶりに弘前扇ねぶたを堪能し、整備された駅前にも感動しました。また、化学科教室同窓会の幹事として、理工学部にも年に幾度か訪問し、先生方ともご縁を続けさせていただいております。

最後になりますが、同樹会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念いたします。筆を終えさせていただきます。

平成十九年度 理工学部卒業・理工学研究科修了 祝賀会



数理システム科学科

去る平成二十年三月二十一日、例年通り大学会館三階大広間にて、理工学部卒業・理工学研究科修了祝賀会が開催されました。ここ数年、祝賀会への参加率が伸びておりましたが、今年度は若干下回る参加率となり、運営に携わる者として努力不足を感じておりました。多数の方に参加して頂ける工夫を模索している所存です。しかしながら、内容におきましては、ご退職の先生方を始め、各学科長や学生からユーモアと感慨溢れる沢山のスピーチを頂戴し、昨年度同様の盛会であったと感じております。最後になりましたが、祝賀会準備及び開催にご協力頂いた理工学部教職員関係各位に感謝申し上げます。次第です。



地球環境学科



物質理工学科



知能機械システム工学科



電子情報システム工学科

弘前大学 理工学部卒業 祝賀会
理工学研究科修了

弘前大学 理工学部卒業 祝賀会
理工学研究科修了

弘前大学 理工学部卒業 祝賀会
理工学研究科修了

弘前大学 理工学部卒業 祝賀会
理工学研究科修了



弘前大学 理工学部卒業 祝賀会
理工学研究科修了

弘前大学 理工学部卒業 祝賀会
理工学研究科修了

平成19年度 弘前大学理工学部同樹会収支決算書

平成20年 3 月31日現在

◎収入の部

項 目	金 額	摘 要
前 年 度 繰 越 金	円 7, 427, 081	
会 費	1, 263, 000	正会員 126人 学 部 1 年 (20年度入学) 46人 460, 000円 " 1 年 (19年度入学) 37人 370, 000円 " 2 年 0人 0円 " 3 年 3人 30, 000円 " 4 年 (祝賀会時納入3人分含む) 38人 380, 000円 " 既卒 1人 10, 000円 院 生 1 年 0人 0円 " 2 年 (祝賀会時納入1人分含む) 1人 10, 000円 " 後期課程 0人 0円 特別会員 1人 3, 000円
卒業・終了 祝賀会当日 会費納入分	168, 000	学生 32人 80, 000円 教員等 35人 88, 000円
預 金 利 息	639	
計	8, 858, 720	

◎支出の部

項 目	金 額	摘 要
弘前大学全 学同樹会費	円 240, 000	9 月26日払込み
同 樹 会 報 成 成 費	288, 175	会報第 8 号 1, 500部 (287, 175円) 寄稿料補助 (1, 000円)
卒業・修了 祝 賀 会	422, 150	卒業・修了祝賀会経費 (254, 150円) 卒業・修了祝賀会当日会費 (168, 000円)
写 真 代	84, 000	卒業・修了祝賀会写真代 (84, 000円)
通 信 費	33, 755	加入案内送料(研究科新入生) (1, 845円) 未加入者へ加入案内送料 (学部 4 年) (21, 800円) 卒業・修了祝賀会写真送料他 (10, 110円)
会 議 費	0	
事 務 費	120, 000	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理 謝金
消 耗 品 費	19, 295	会費払込取扱票 (9, 450円) ワープロラベル用紙, ドッジファイル, P P C 用紙他 (9, 845円)
郵 便 振 替 払 込 料	13, 200	会費払込手数料 (123人)
予 備 費	7, 638, 145	次年度以降経費引当金を含む
計	8, 858, 720	

平成20年度

弘前大学理工学部同樹会収支予算書

平成20年4月1日現在

◎収入の部

項目	金額	摘要
前年度繰越金	円 7,638,145	
会費	3,640,000	正会員 364人×@10,000円 学部 1年 309人 " 2年 10人 " 3年 10人 " 3年 35人
計	11,278,145	

◎支出の部

項目	金額	摘要
弘前大学全学同窓会費	円 240,000	
同樹会報作成費	285,000	1,500部×@190円
卒業・修了祝い会	250,000	100人×@2,500円
写真代	100,000	卒業・修了者祝賀会記念写真 190人×@525円
通信費	30,000	加入案内送料（研究科新入生） 50人×@90円 加入案内送料（学部学生4年） 250人×@80円 卒業・修了者祝賀会記念写真送料他 5,500円
会議費	10,000	
事務費	120,000	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
消耗品費	20,000	ワープロラベル用紙、P P C用紙他
郵便振替払込	15,000	会費払込手数料 150人×@100円
予備費	10,208,145	次年度以降経費引当金を含む
計	11,278,145	

理工学部同樹会協賛者
(平成二十年四月一日)
平成二十一年二月二十八日

畑 元子 氏 三口
杉山 芬 氏 一口
細川 勉 氏 二口
祖父尼 俊雄 氏 二口

以上の方々よりご協賛いただきました。誠にありがとうございました。

編集後記

平成十七年度より幹事（会計担当）を務めております一條健司。平成二十一年、弘前大学は創立六十周年を迎えます。弘前大学の還暦ということ、行事等の計画が進んでおります。創立六十周年記念事業についての詳細は、以下のホームページよりご覧いただけます。会員各位のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

<http://www.hirosaki-u.ac.jp/60AnniVersary/60AnniVersaryIndex.html>

さて、昨年来の金融不安に関連する連日の報道の中で、「人」を育てることの重要性が問われているように思います。「人」とは、家庭においては子供、教育現場においては生徒や学生、企業においては社員、などとなり得るのでしょうか、親、教師、経営者もまた「人」であり、育てる側も己の成長を意識し、年齢、立場、自他を越えて「人」というリソースの大切さを再確認する時期にいたるのかも知れません。そして、不安を乗り越える力の礎は、様々な個性をもつ「人」の繋がりにあるように感じます。本会も繋がりの一つのパスであります。各方面でご活躍の会員のお知恵、お力をお寄せ頂き、新入会員へと繋げてゆければと願っております。最後に様々な面にてご協力頂きました、理工学研究科事務長始め事務職員の方々に、この場をお借りして感謝申し上げます。

事務局

弘前大学大学院理工学研究科 一條 健 司
住所：〒036-8561
弘前市文京町三
電話：0172-39-3660
E-mail: ken@eit.hirosaki-u.ac.jp
URL: <http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~doju/>



監査	幹事	副会長	会長
須藤	荒木 一 條	松野 三 浦	千葉 信 行
勝 弘	宏 孝	健 司	徹 也

役員一覧